

農業は山形県の基盤産業であり、生産から加工、流通、販売、さらには観光との連携など、幅広く地域経済を活性化する原動力となっています。

その一例として、本県には、「つや姫」「雪若丸」「はえぬき」などの良食味の米、または山形を代表する初夏の味覚である「佐藤錦」「紅秀峰」「やまがた紅王」などのさくらんぼや秋には西洋なし「ラ・フランス」などの果樹、季節を届けるすいかやメロン、えだまめなどの野菜、暮らしを彩るバラや「啓翁桜」、アルストロメリアなどの花き、「総称山形牛」や銘柄豚、「やまがた地鶏」などの畜産物、素材の特性を引き出した付加価値の高い農産加工品等々、四季折々のおいしさや華やかさを兼ね備えた農産物が数多くあります。

これらは、山形県の豊かな自然、先人の英知とたゆまぬ努力で築き上げてきた高い農業技術に加え、新品種や新技術の開発・普及とブランド化に、生産者の皆様、市町村、J Aグループ等関係機関が一体となってオール山形で取り組んできたことの成果です。

一方で、農業従事者の減少や高齢化による労力不足、地球温暖化に起因する気温のトレンド上昇と振れ幅の増大、燃油や肥料、飼料等資材価格の高騰など、農業を取り巻く情勢は時々刻々と変化しております。

このような状況を踏まえ、令和7年3月に策定された「第5次農林水産業元気創造戦略」では、農林漁業者が豊かさを実感し、誇り・夢・希望が持てる農林水産業と、環境の変化に対応できる持続可能な食料供給県やまがたを実現していくため、共通目標として「未来を拓く『人』と『技術』が躍動する、新時代の農林水産業の展開」を掲げています。

「新しい技術」を通した本県農業への寄与は試験研究機関の重要な役割であり、本県の優位性を発揮し山形ブランドを形成する競争力の高い新品種の育成、社会・経済環境の変化に対応し新たな価値を創出する技術、地球温暖化等自然環境の変化に対応しSDGsに寄与する技術や、ICT等先端技術を活用した省力的・効率的な技術を開発し、本県農業の生産性向上や農業者の収益性向上に貢献していくことが重要であると考えております。

当センターでは、多様な担い手が将来にわたって「誇り・夢・希望」を持ち続けて農業に取り組むことができるよう、農業・農村の現場ニーズに対応するとともに、生産現場へ提案する技術開発にも積極的に取り組み、得られた成果の速やかな技術移転に努めてまいりますので、今後とも関係者の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

山形県農業総合研究センター
所長 近野 広行

